

- 1-1 重層扁平上皮からなる組織はどれか。2つ選べ。
- (1) 食道の粘膜上皮
  - (2) 大腸の粘膜上皮
  - (3) 膀胱の粘膜上皮
  - (4) 膣の粘膜上皮
  - (5) 肺胞上皮
- 1-2 高尿酸血症に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。
- (1) 診断基準は血清尿酸値 8.0 mg / dL 以上である。
  - (2) 女性の血清尿酸値は男性に比し低値を示す。
  - (3) 尿 pH を酸性化することが必要である。
  - (4) 遺伝的素因は関係しない。
  - (5) 肥満者は尿酸排泄能が低下する。
- 1-3 20歳の女性。意識混濁のため搬入された。2ヶ月前から体重減少に気付いていた。1年前の健康診断では異常はなかったが、2週前の健康診断の結果は、空腹時血糖 260 mg / dL であった。今朝から意識がもうろうとしてきた。意識レベルは JCS II -20。身長 160 cm、体重 45 kg。呼吸数 22 / 分。脈拍 111 / 分、整。血圧 120 / 86 mmHg。  
身体所見で認められる可能性が最も高いのはどれか。1つ選べ。
- (1) 眼底出血
  - (2) 眼球突出
  - (3) 下腿浮腫
  - (4) うぶ毛の密生
  - (5) クスマウル呼吸
- 1-4 膵炎に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。
- (1) 急性膵炎では、血中アミラーゼは低下する。
  - (2) 重症な急性膵炎では、低カルシウム血症をきたしやすい。
  - (3) 慢性膵炎では、グルカゴン分泌能が上昇する。
  - (4) 慢性膵炎の再燃期は、濃厚流動食にて栄養管理を行なう。
  - (5) 慢性膵炎の間欠期の食事療法では、たんぱく質制限が基本となる。
- 1-5 心不全についての記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。
- (1) 心不全は、病態ではなく疾患を表す名称である。
  - (2) 多くは、右心不全から左心不全の順に進行する。
  - (3) 左心不全では、肺循環系にうっ血が著明である。
  - (4) 右心不全では、頸静脈怒張がみられる。
  - (5) クスマウル呼吸が認められる。

- 1-6 腎臓の構造と機能に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。
- (1) 右腎臓の方が左腎臓より位置的に高い。
  - (2) アミノ酸は、糸球体で濾過されない。
  - (3) 糸球体でろ過された水分は、約10%が尿細管で再吸収される。
  - (4) エリスロポエチンは、腎臓から分泌される。
  - (5) 尿素は、主に腎臓で産生される。
- 1-7 内分泌疾患に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。
- (1) 甲状腺機能低下症では、体重が減少する。
  - (2) バセドウ病では頻脈がみられる。
  - (3) クッシング症候群では、低血糖がみられる。
  - (4) 原発性アルドステロン症では、高カリウム血症がみられる。
  - (5) 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（SIADH）では、低ナトリウム血症がみられる。
- 1-8 パルスオキシメーターによるSpO<sub>2</sub>の測定に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。
- (1) SpO<sub>2</sub> 80%は、正常範囲である。
  - (2) 測定時は軽く呼吸を停止する。
  - (3) 動脈血酸素飽和度を反映する。
  - (4) マニキュアは、除去しなくても測定できる。
  - (5) 観血的処置が必要である。
- 1-9 8か月の乳児。下痢と嘔吐とを主訴に来院した。昨夕に2回の嘔吐があり、次いで下痢が出現し、  
昨夜から今朝までに数回下痢があった。便の色調は白色調であったという。  
現時点で想定される疾患について正しいのはどれか。1つ選べ。
- (1) 夏期に多い。
  - (2) 終生免疫が獲得される。
  - (3) 抗菌薬を投与する。
  - (4) 経口ワクチンが実用化されている。
  - (5) 主に学童に流行する。
- 1-10 免疫・アレルギーに関する組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。
- (1) 細胞性免疫 ————— IgG
  - (2) 移植臓器拒絶反応 ————— Bリンパ球
  - (3) 食物アレルギー ————— IgE
  - (4) 能動免疫 ————— 免疫グロブリンの注射
  - (5) 受動免疫 ————— ワクチンの接種

次の文を読み、1-11 と 1-12 に答えよ。

58 歳男性、全身倦怠感、悪心、食欲不振、食事の摂取量低下が3 ヶ月以上続いており受診した。胃がんと診断され胃全摘手術を目的に入院となる。身長 170 cm、体重 55 kg。6 ヶ月前の体重は 66 kg であった。血清アルブミン 3.1 g / dL、ヘモグロビン 9.6 g / dL、血清総コレステロール 127 mg / dL、総リンパ球数 1200 / mm<sup>3</sup> であった。上腕筋囲 21.1 cm (JARD2001 平均値 23.74 cm)、皮下脂肪厚 8.2 mm (JARD2001 平均値 10.04 mm)。

1-11 本症例の栄養アセスメントに関する記述である。正しいのはどれか。2 つ選べ。

- (1) 体たんぱく異化亢進は認めない。
- (2) 低アルブミン血症を認める。
- (3) 免疫能が低下している。
- (4) 術前の栄養ケアは必要としない。
- (5) 入院前 6 ヶ月間、必要エネルギー量は充足されていた。

1-12 術後に予想される合併症や食事の状況の記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 術後 1 ～ 2 ヶ月経過頃より、巨赤芽球性貧血を呈する。
- (2) 食事摂取量は、術前の健康時の状態に回復する。
- (3) 骨粗鬆症を呈する。
- (4) 食後 30 分から 1 時間後に後期ダンピング症候群を認める。
- (5) 逆流性食道炎は起こしにくい。